



末野2区の初期消火訓練



用土7区の救護訓練

11月2日に末野2区、10日には用土7区で自主防災訓練が開催され、各区で約30人が参加しました。当日は消防職員および地域防災指導員による初期消火訓練、救護訓練が行われました。参加者は「なかなか近所の方と交流する機会がなかったが、訓練を通して交流することができてよかった」「これからの訓練に参加して、万が一のときに行動できるようにしておきたい」と話してくれました。

訓練を指導した方のコメント

深谷消防署花園分署
特別消防係長 野辺敏之さん

大規模災害が起こった場合、消防の要請は多くなる一方で、道が寸断され、活動時間も長くなり、消防の到着は遅くなります。近くにいる人を助けるため、地域の皆さんが適切な処置ができるように訓練を続けてほしいです。



地域防災指導員※
高柳昌弘さん（立原）

この指導員を通して、地域の皆さんが消防が到着するまでの救助の一步を踏み出せるようになってもらえたら、という思いで務めています。訓練は繰り返しが大切。積極的に参加してほしいです。



※ 防災知識のある消防 OB 等で、町からの依頼により自主防災組織の防災訓練の補助や指導を行う方

いつ起こるかわからない災害に備えて

災害が発生したときには、家族のことや自宅のことなど、さまざまなことが気がかりになってしまいます。しかし、何よりもまずは「自分の命を守ること」です。そのために、今できることは何か。「あるとき準備しておけば」ということをなくすために、必要な物を備え、避難先や移動手段の検討、家族との連絡方法の確認など、日頃の備えが大切です。

そして、災害時には自分一人では対処できないことが数多く発生します。地域に暮らす人たちが一体となって協力し支え合うことで、被害を最小限に抑えることができます。助け合いの心を忘れないよう、普段から声をかけ合い、地域の防災訓練などにも積極的に参加して、地域コミュニティの絆を深めていきましょう。

備えがなくては安全・安心は生まれません。万が一の備えで安全・安心を。



地域を守る 自主防災組織

町の67行政区すべての地区に自主防災組織があります。自主防災組織とは、地域住民が自発的に結成し、地域内の安全点検や防災訓練、災害発生時の避難誘導等、地域防災の中核として重要な役割を担っています。

寄居町は山地、丘陵、台地、低地と多様な地形を有する一方、丈夫な地盤から、あまり災害の話は聞いたことがないと思います。しかし、昭和6年には寄居町付近を震源地とする内陸直下型地震の西埼玉地震が発生し、震度5の大きな揺れにより死者16人、負傷者146人、建物全半壊492棟の大きな被害となりました。

また、最近よく聞く線状降水帯により、集中豪雨による水害が多くなって

「危険性の認知と早めの避難」 過去の災害から学ぶ

います。線状降水帯は、次々と同じ場所に発生する積乱雲により河川の氾濫、床上浸水、床下浸水、道路冠水、崖崩れなどを引き起こし、大規模な被害となる危険性があります。

令和元年の台風第19号では、寄居町でも避難所開設をしています。しかし、自宅外に避難をするべきか、自宅にとどまるべきかの判断をするのは、自分自身です。災害から身を守るためには、ハザードマップなどで日頃から地域の危険性を認識し、早めの避難をすることが重要です。



令和元年台風第19号による金尾地区の被害状況

地域助け合いの精神 「共助」

平成7年1月17日午前5時46分に発生した阪神淡路大震災では、救出された人のうち、およそ8割の約2万7千人が、地域の力を合わせた「共助」で救出されました。災害による被害が広範囲に拡大すると「公助」に当たる消防等の公的機関による災害救助には、遅れなど活動に限りがあります。災害発生時には、自身と家族を守り近隣者と協力し合える地域コミュニティが大切です。

田中さんが伝えたいこと

災害への備えの基本である「自己管理」に努め、自分の命は自分で守る意識を持ち、普段から声をかけ合うなど、地域でのコミュニケーションを図り「助け合いの精神」を忘れない生活を心がけましょう。



折原レクまつりでの炊き出しの様子

相互協力による 防災・減災

災害発生時には「自助」「共助」「公助」が互いに連携し一体となることで被害を最小限に抑えることができ、早期の復旧・復興につながります。

自助

災害発生時に、自分や家族の安全を自ら守ること

公助

国や市町村など公的機関(警察・消防・自衛隊等)からの救助や援助

共助

地域やコミュニティで周囲の人たちと協力し助け合うこと

